

～福島県『いわき市災害救援ボランティアセンター』の運営から学ぶ～  
東日本大震災被災地での『ボランティア活動のしおり』



写真は、福島県いわき市内の被災現場と同市災害救援ボランティアセンターに登録して活動するボランティア。

編集：社会福祉法人 熊本県社会福祉協議会  
熊本県ボランティアセンター

**まずは、被災地に向かう前に『正確な情報』を入手してください。**

○熊本県社会福祉協議会「災害ボランティア情報」

[http://www.fukushi-kumamoto.or.jp/kinkyu/pub/default.asp?c\\_id=23](http://www.fukushi-kumamoto.or.jp/kinkyu/pub/default.asp?c_id=23)

または、

熊本県社会福祉協議会

検索

⇒

緊急情報

をクリック

**ボランティア活動保険の『天災タイプ』への加入が必要です。**

被災地へ出発される前には、必ずボランティア活動保険の「天災プラン」へ加入してください。自宅を出発した時点から補償されます。特に、地震などの天災に起因する事故によるケガは、「天災プラン」でなければ補償できません。すでに基本タイプに加入している方も「天災プラン」への加入が必要です。年間保険料は、補償内容に応じてAプラン490円、Bプラン720円となっています。いずれも年度末までの補償となっています。保険加入者には「加入カード」が発行されますので、現地の災害ボランティアセンターの受付でカードを提示してください。

**被災地でのボランティア活動は、自己判断・自己責任・自己完結です。**

ボランティアの受付業務など事務的な活動もありますが、気力や体力を必要とする清掃活動もあります。また、余震や長雨により土砂災害が発生するなど二次・三次災害が発生する危険も伴います。『無理は禁物』です。体調管理にも気を配り、活動への参加や中止は、自己の責任において判断してください。

被災地の被災者、避難所、市役所や役場、災害ボランティアセンターなどの迷惑をかけたり、手間をとらせたりしないよう、交通手段や宿泊先は、ボランティア自身で手配してください。

被災地の道路では、陥没、段差、デコボコが数多く見受けられます。地元の車にゆっくりついて行くなど、運転には十分注意してください。



車道だけではなく、歩道も写真(右)のようにデコボコになったり、ひずんだりしているところがあります。つまづかないように注意してください。

写真(左)のように道路が壊れたり、デコボコになったりしている部分があります。通行止めになっているところもあります。余震で新たに壊れる恐れもありますので、注意して走行してください。



## 『災害ボランティアセンター』での『受付』から『終了』までの流れ

\* 『いわき市災害救援ボランティアセンター』を例にして説明しています。

### ① 【ニーズ受付】

被災された住民からの電話や、民生委員など近所の方からの連絡で、いつ、どこで、どんなことを、何人ぐらいのボランティアに依頼したいか等の要望(ニーズ)を受付けます。



被災者やボランティアの参加希望者からの電話にキチンと対応できるように、地図情報や市の災害対策情報などが、部屋の壁一面に掲示されています。

受付スタッフは、被災者からの「助けてください」の声に耳を傾け、その内容を「ニーズ票」にまとめます。この票には、地理に詳しい地元ボランティアが、地図帳から探した活動現場周辺の地図が添付されます。



### ② 【ボランティア受付】

各地から集まるボランティアを受付けます。



ボランティアは、最初に受付をします。受付の時間は、午前中に済ませてください。午後からは、活動に参加できない場合があります。

ボランティア受付票に氏名等を記入します。ボランティアであることを証する名札や名前を書いた色ガムテープを付けます。これにより被災者に安心感が生まれます。



### ③【オリエンテーション】

活動における注意事項の説明があります。



安全に活動することや、被災者のプライバシーを守ること、無理をしないことなど活動上の注意事項の説明があります。

被災者への配慮では、作業後に被災者と記念写真を撮らないよう注意されていました。

いわき市では、②の受付後すぐにオリエンテーションが行われていました。⑤のグルーピングの後に行うセンターもあります。また、いわき市では、初めて参加する方のみオリエンテーションを行い、2回目以降の方は、受ける必要はありませんでした。



### ④【マッチング】 ⑤【グルーピング】

スタッフが、①のニーズ票に基づいて、いつ、どこで、どんなことを、何人ぐらいのボランティアが必要かを待機しているボランティアに呼びかけ、参加可能なボランティアを集めます。

集まったボランティアをグルーピング(班分け)して、リーダー決めを行います。いわき市では、マッチングとグルーピングを同時に行っていました。



「マッチング」とは、被災者のニーズとボランティアを調整して組み合わせるという意味です。

ニーズ票と活動現場周辺の地図が渡され、被災者宅の状況など詳細な説明を受けます。

グルーピングでは、ボランティアを少人数のグループに編成し、そのメンバーの中からリーダーを決めます。リーダーは、グループの安全管理やボランティアセンターと連絡調整を担います。



## ⑥【資材】

ニーズ票に基づき、現場で必要な道具などの資材を貸し出します。



グループのリーダーは、ニーズ票を見ながらグループ人員に見合った資材をここで調達します。  
リーダーは、現地に資材を忘れてこないよう管理します。



一輪車のことを建築・土木業界では「ネコ」と呼んでいるそうです。いわき市のボランティアセンターでもネコと呼ばれていました。作業終了後は、借りた資材の数をスタッフにも確認してもらい返却します。

## ⑦【送り出し（輸送）】 ⑧【活動現場】



ボランティアの車両で移動するケースとボランティアセンターの車両が送迎するケースがあります。  
写真(左)は、被災者宅での活動の様子です。散乱した家具等を整理しています。

写真(左)のような泥出し作業では、粉じん等の吸入防止のためのマスクと、釘やガラスなどが刺さらないよう厚底靴は必需品です。作業の服装については、NPO法人「レスキューストックヤード」のホームページに掲載の「水害ボランティア作業マニュアル」を参考にしてください。



## ⑨【資材返却】 ⑩【活動報告】

災害ボランティアセンターへ戻って資材を返却し、活動内容等の報告をします。



センターでは「お疲れ様でした。」と声がかかります。

借りた資材を返却し、リーダーは活動報告書を作成します。作業内容、作業の継続の必要性、被災者の様子や依頼以外のニーズがなかったか、メンバーのケガの有無、感想・要望などを記入します。報告書提出後、解散となります。

災害ボランティアセンターにも芸能人が応援に来られることがあります。

写真(右)は、いわき市災害救援ボランティアセンターへ4月22日に来所された漫才師「パクンマクン」のお二人です。



### 活動中の心構え

ボランティアが頑張っているのに、疲れているのに一緒に無理して作業を手伝おうとする被災者もおられます。「**私たちが来ている時くらいは、ゆっくり休んでください**」と声をかけ、被災者を休ませてあげましょう。

災害時のボランティア活動の基本は、被災者の方の心に「**よりそう**」ことです。被災者の声に耳を傾け、行動や言動が押しつけにならないよう気配りしましょう。

### 「災害ボランティアセンター」の運営に関すること

今回は『いわき市災害救援ボランティアセンター』を基本にして、「センターの一日」をご紹介しました。センターの運営には「**こうしなければならない**」というルールはありません。むしろ、そこに集うスタッフやボランティアでルールをつくりあげていくものです。このため、毎夕のスタッフミーティングを通して、改善が重ねられています。そのため、それぞれの災害ボランティアセンターで、受付から終了までの流れが異なることをご理解ください。また、危険が伴う活動もありますので、現地では、災害ボランティアセンターの指示に従って行動してください。

災害ボランティアセンターでは、調整に手間がかかり、待ち時間が長くなることもあります。でも、怒らないでください。「**待つこともボランティア活動**」なのです。

長期間(おおむね連続3日以上)の活動が可能な方なら、災害ボランティアセンターの運営スタッフとして活動してみませんか。運営スタッフも多くのボランティアに支えていただいています。これも被災地に「**よりそう活動**」です。現地のスタッフへ「**センターのスタッフになりたいです**」と声をかけてみてください。